

令和6年度 学校評価報告書（目標設定

実施結果

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎学力の定着を図る「学び直し」から、自ら考え判断し表現する力までを育み、普通科と美術科が相互に刺激し高め合うとともに持続可能な教育課程を編成、実施する。 ②「育みたい生徒像」を実現し、個に応じた学力を育成するためのICT活用を進め、組織的な授業改善を行う。 ③学校行事等とおして、協働する力を育む。	①確かな学力の定着と教育の「質」を高める授業改善を進める。 ②一人一台端末に対応した授業方法を発展する。 また、図書館の利用を促し、生徒の読書活動を推進する。 ③体育祭、文化祭、球技大会、生徒総会等の各学校行事について、生徒が主体的に企画運営できるように支援する。また、生徒が積極的に参加できるように努める。	①インクルーシブ教育の充実のためユニバーサルデザインを意識した授業を行う。 ②ICT機器を効果的に使用するための情報発信を行う。また、図書館と各教科等の連絡を密にし、生徒が活字に親しむ機会を増やす。 ③生徒会本部役員とコミュニケーションをとりながら各学校行事の目標と評価の観点を設定し、関係する委員会と連携を図りながら、設定した目標の実現に向けた企画運営を行う。	①インクルーシブ教育の充実のためユニバーサルデザインを意識した授業を行うことができたか。 ②ICT機器を効果的に使用した授業が行えたか。図書館の利用機会が増加したか。 ③生徒会本部や委員会において生徒全体のニーズや要望に応えた活動ができたか。また、活動を通じて生徒自身が達成感、満足感を感じることができたか。 ③各学校行事への参加率や生徒の達成感、満足感を高めることができたか。	①教科間で情報共有し、ユニバーサルデザインを意識した授業を展開している。 ②ICT機器の使用は拡大傾向にある。図書館を活用し、地歴公民科と美術科の授業を実施した。 ③5月の体育祭では、生徒会本部役員がスローガンを設定し、実行委員会や応援団と連携しながら企画運営を行った。体育祭後の生徒アンケートでは、91%が今年度の体育祭に満足したと回答した。なお、出席率は96.5%であった。10月の楓祭では、生徒会役員がスローガンを設定し、実行委員会や部活動と連携しながら企画運営を行った。楓祭後の生徒アンケートでは、85%が今年度の楓祭に満足したと回答した。なお、1日目の出席率は95.8%、2日目の出席率は96.2%であった。	①Wi-Fi環境や導入した機材の劣化や破損により、使用教室によって差が生じることがあるので改善したい。 ②クロムブックより使い慣れたスマホを使用する生徒が未だ一定数見られる。 ③体育祭と楓祭において、昨年度以上に生徒の満足度を高めることができた。（生徒アンケートの結果は、昨年度度の体育祭が85%、楓祭が83%の満足度であった。）楓祭において、昨年度以上に生徒を参加させることができた。（昨年度の楓祭1日目92.9%、2日目89.7%の出席率）生徒が主体となった学校行事の企画・運営をするために、生徒会だけではなく、委員会や部活動等の幹部もいれた生徒企画会議を実施し活性化を図る。	○一人一台端末でICT化が急速に進み、授業の仕方も変化しつつ、実りある内容に繋がっていくことを期待します。 ○小学校では個別支援80人在籍の学校もあります。保護者から進路先に白山高校の名前があがることもあります。インクルーシブ教育への期待値は高いと思います。 ○体育祭や楓祭のアンケートで、生徒は十分に楽しみ満足しているようです。生徒の心に残るよい体験を積み重ねられたのではないのでしょうか。	①フロントゼロやタイマーの利用はインクルーシブ導入学年以外でも定着が見られた。 ②ICT機器の利用を前提とした授業展開が多く、授業で定着したが、非常勤講師に提供されるICT機器に課題が見られることもあった。 ③学校行事では生徒主体の企画・運営を実施することができた。次年度は生徒の満足度を高めるだけでなく、学校行事を通して成長したと実感できるように取り組みを工夫したい。	①Wi-Fi環境を強化する。 ②職員室のレイアウト変更により、ICT機器に関する環境を改善する。 ③生徒会と部活動が主となって動いているので、委員会や有志の力も借りながら、学校行事の企画運営を進める。生徒アンケートでは、成長したと感じた部分について回答させる。
2	生徒指導・支援	①他者を認める寛容の精神と自らを律することができる自己管理力を育てる。 ②生徒一人ひとりの課題に対するきめ細かな教育相談体制を充実・発展させる。 ③部活動・委員会活動やボランティア活動等とおして豊かな人間性や社会性を育てる。	①日常生活習慣を改善し、ルールやマナーを遵守できる生徒を育成し安心・安全な学校づくりを推進する。 ②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに寄り添う教育相談の充実を図る。 ③部活動への関心を高め、加入率の向上および部活動の活性化を図る。 ③生徒会活動や委員会活動を中心として、生徒主体の学校行事の企画・運営に努める。また、様々な活動とおして、充実	①学年ごとの生徒指導体制を充実させ、服装、髪などのルール、授業中、登下校時のマナー（遅刻指導を含む）に関する指導を実践する。 ②生活アンケートやサポートドックの内容を読み解き、生徒の抱えている悩みや困り感の把握し、SCやSSWとの連携を密にする。 ③部活動の勧誘・広報活動等を充実させ、新入生の部活動加入率を高める。 ③学校や近隣地域などのボランティア活動等を紹介・支援し主体的な参加を促	①問題行動が減少したか。生徒が自らルールやマナーを遵守して行動する自己管理力を身に付けたか。 ②支援を必要とする生徒の正確な把握と適切な支援を策定することができたか。適切に外部専門機関を活用することができたか。 ③部活動加入率や満足度は向上したか。 ③ボランティア活動を行う機会を増やすことができたか。	①学年ごとの指導体制は生徒指導と担任の協力により円滑に行われている。様々な指導も定着し生徒の生活習慣は改善の方向に向かっている。 ②SC、SSWとの協力体制は整ってきている。教育相談体制も確立できている。悩みを抱えている生徒に対する支援や対策も充実してきた。ただし、今後は多様な生徒も増えてくると予想されるので、ますます縦横の連携が必要だと思われる。 ③新入生歓迎会や部活動一斉ミーティングを実施し、部活動・同好会への加入率を高めることに努め、例年30%前後の加入率のところ、今年度は40%以上の生徒が部活動・同好会に加入した。	①問題行動は減少傾向にあり、重篤な問題も減ってはいるが、基本的な生活習慣の定着には今後一層の指導が必要である。 ②SC、SSWへの相談件数は依然として多数の申し込みがあり、サポートドックや生活アンケートで生徒の悩みの把握に努めているが、アンテナの感度はより一層上げていく必要がある。 ③仮入部期間を設定し、部活動・同好会の加入率を高めることができた。また、部活動の活動状況をHPへ、タイムリーに掲載できた。入部した生徒が継続して部活動等に取り組むことができるよう	○地域の住民として、生徒の喫煙、バイク通学、自転車乗車マナーなどはよくなっていると思う。バス乗車マナー指導について、引き続きご指導いただきたい。 ○悩みを発信できない生徒へのアプローチもお願いします。 ○先生方の積み重ねた指導により、改善に向かってチームでの取り組みをされていると感じました。 ○中学校では、「教員主体から生徒主体へ」として取り組ませている。生徒たちは自ら真剣に考えると、適切な行動をとれるようになると思う。	①問題行動は減少傾向、近隣の住民からの苦情なども減ってきて生徒の意識は改善されている。 ②メンタルケアについては成果があがっている。表面に出てこない潜在的なものがある前提で取り組む。 ③仮入部期間を設定したことにより、多くの生徒が部活動等に入部することができた。今年度は仮入部期間を1か月で設定したが、少し長いと感じる部分もあったので、期間を短くして実施したい。	①学年ごとの指導・支援体制が機能しているが、今後は横の連携だけでなく学年をこえた縦の連携を強化する。 ②クラス担任や教科担当でアンテナを広げ、SC、SSWに相談が行く前段階での拾い上げができるようグループと学年の連携を密にする。 ③仮入部期間を2週間にするとともに、生徒が計画的に体験できるような環境設定をする。また、入部した生徒がその後も継続して取り組むこと

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			した学校生活を送り、白山生としての誇りを大切にする生徒を育成する。	す。			に、退部率についても調査し、必要な手立てを検討する。			ができるように、退部率とその理由について調査する。
3	進路指導・支援	①「未来に向けて自らをデザインしよう」をスローガンに、高い志を持って目標に向かい努力することによって自己実現を図る指導を行う。 ②美術科の専門性を生かした進路実現を支援する。	①アセスメントテスト（基礎力診断テスト）（到達度テスト）の結果を活用し、自己有用感を向上させる。 ①②進路実現に向けた前向きな態度を養う。	①進路適性テストを活用し、自己の能力・適性等の理解を深める。自己有用感を高めるため成績が向上した生徒を表彰する。 ②個々の特性や専門性をふまえ、インターンシップ等の体験活動を有効活用する。	①自己有用感を高め、成績が向上した生徒が増加したか。 ②インターンシップ等の体験活動に積極的に参加するなど、進路実現に向け主体的に取り組むことができたか。	①キャリア発達の支援に自己有用感を高められるよう工夫しながら取り組むことができた。特に社会人を招いての講話は多くの生徒が自分事としてとらえることができた。アセスメントテストは徐々に浸透し学習することの意義を見出す生徒が増加した。CBT は課題が残った。 ②インターンシップ等に16 事業所の協力で、のべ27 名が参加し、進路実現に向け主体的に取り組むことができた。進路実現については多くの生徒の希望に沿った指導ができた。	①今後も計画的に取り組んでいく。進路多様校のため、研修等を通じて教員のスキルアップを図りつつ生徒の希望に沿った進路指導を行う。CBT 実施時の設備面、生徒自身のスキル等、よりよい方向を見据えながら検討する。 ②インターンシップは参加生徒に成長が見受けられる。進路多様校のため教員の負担が大きいが、研修等を通じて教員のスキルアップを図りつつ生徒の希望に沿った進路指導を行う。	○インターンシップでの経験はとても有意義なものになると思うので引き続きお受けいただきたいと思っています。今年度は担当の先生も来ていただいて、情報共有できてよかったです。	①キャリア発達の支援に自己有用感を高められるよう工夫しながら取り組むことができた。社会人を招いての講話は多くの生徒が自分事としてとらえていた。アセスメントテストは徐々に浸透し学習することの意義を見出す生徒が増加した。 ②インターンシップ等に参加し、進路実現に向け主体的に取組めた。また、情報共有もできた。進路実現については多くの生徒の希望に沿った指導ができた。	①キャリア発達の支援については、今後も計画的に取り組む。CBT 実施時の設備面、生徒自身のスキル等に課題があるので、改善の方策を検討する。 ②進路多様校のため教員の負担が大きいが、研修やインターンシップ対応等を通じて教員のスキルアップを図り、生徒の希望に沿う進路指導を行う。
4	地域等との協働	①地域と共にある学校づくりを行い、広い視野を持ち、地域に貢献することによって自己有用感を育む活動を充実させる。 ②地域や PTA 等との連携を図り、安全・安心で信頼される学校づくりに取り組む。	①地域の清掃活動に取り組み、地域に貢献する姿勢と、貢献活動を通じた自己有用感を育む。 ②地域や PTA と連携し、生徒が安全で安心して生活できるよう、環境づくりに取り組む。	①地域貢献デーなどの機会を通じて清掃活動に取り組む。 ②地域や PTA と連携して安全な自転車の乗車について呼びかけるなどの活動を行う。	①清掃活動を通じて、地域貢献が実施できたか。 ②地域や PTA と連携した交通安全の取組ができたか。	①11 月 14 日地域貢献デーで、1 学年美術科生徒が地域の清掃活動を実施した。あわせて、月 1 回の PTA 活動時に清掃活動を実施した。 ②5 月の交通安全週間で警察や市の地域振興課、地域代表と共に生徒会が自転車の指導を行った。PTA の参加までには至らなかった。	①生徒が定期的に清掃活動を実施できるよう検討する。掃除用具等の不足を解消する。 ②PTA の取組については保護者委員の負担を考えながら、地区の PTA 交通安全大会の取組と絡めながらできることを検討する。	○ケアプラザ等で、地域交流スペースをつくる予定である。ぜひ協力をお願いしたい。 ○定期的な地域との合同の清掃の機会等を設けられればよい。 ○地域貢献活動で、社会の一員、人のために役立つことに価値があるという発見につながる事を願います。	①地域貢献デーとして、1 年美術科生徒により、清掃活動を実施することができた。 ②交通安全週間で警察や市の地域振興課、地域代表と共に生徒会を中心に自転車の乗車指導を行った。	①地域との清掃活動等で連携を図る。また、地域貢献デーの実施について、全校で実施する。 ②PTA の取組は、保護者委員の負担を考えながら、地域との交流を深め、生徒の安全・安心な学校生活の支援につなげる。
5	学校管理 学校運営	①教員が多様で複雑な生徒の課題に寄り添い向き合う時間を確保するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ②在校生や中学生、保護者や地域に向けた情報発信を充実させる。 ③事故・不祥事の根絶を図る。	①生徒の課題に寄り添い、支援を継続する。 ①ICT 活用による業務の効率化とペーパーレス化を推進する。 ②在校生、保護者等のみならず、中学生や地域に向けて分かりやすくタイムリーな情報発信を行う。 ③事故・不祥事をゼロとする。	①人権研修会などの機会を通じて、困り感のある生徒への対応力を強化する。 ①ICT の活用で、情報共有の効率化を図るとともに会議のペーパーレス化を推進する。 ②生徒の取組について、外部の目線に立った分かりやすい HP の運営を行う。 ③不祥事防止研修を定期的に行う。機会をとらえ個別面談等を実施する。	①人権研修などの機会を設け支援の対応力を強化できたか。 ②外部の目線に立つて分かりやすくタイムリーな情報発信ができたか。 ③不祥事防止研修を定期的に実施できたか。事故・不祥事をゼロとしたか。	①10 月 21 日に市原青年矯正センターから講師を迎え、人権研修会を実施した。 ①ICT の活用により情報共有の効率化や会議におけるペーパーレス化を推進している。 ②説明会などの行事ごとにアンケートを実施し、結果をもとに外部の目線に立った分かりやすい HP 運営に生かしている。 ③不祥事防止研修会を毎月、校内人権研修会を2 回実施し、事故・不祥事をゼロとしている。	①人権研修会の実施により、新たな知識や対応法を実践することで、生徒支援を強化できた。引き続き、教職員のスキルを上げる。 ①Teams を活用し職員会議等を運営することができた。一層のペーパーレスを図る。 ②HP 運営について、タイムリーな更新をすることができた。外部の方に分かりやすい HP とする。 ③不祥事防止研修会を毎月、人権研修会等で教員のスキルを高め、引き続き、事故・不祥事をゼロとする。	○多様な生徒・保護者に向き合う先生方の心労は計り知れないものと感じています。多くの研修等も実践いただいていることがわかりました。 ○学校の魅力をいかに出していくかが考えどころである。	①研修を通じて、困り感のある生徒への対応力を強化することができた。 ①Teams を活用することで職員会議等の会議のペーパーレス化を図った。 ②HP 運営について、タイムリーな更新をすることができた。進路状況や教育課程、学校行事など、今後も外部の方に分かりやすい HP とする。 ③事故・不祥事はゼロであった。	①多様な生徒にどのように向き合っていくか、今後も研修の機会を設け対応力を強化する。 ①今後も会議等の一層のペーパーレス化を図る。 ②アンケートの結果などをもとに、外部の方の目線に立った HP 運営をする。 ③引き続き、全職員一丸となって取り組む。